

川場村の放射線量の状況とその対応について

平成23年6月23日 作成

◎村内各地の放射線の測定

5月25日（水）県内92カ所の群馬県実施の測定値が新聞等で報道される。

（掲載抜粋）

単位：μsv/h

測定位置：地表

測定器：サーベイメーター

測定住所	測定値	測定場所	測定日
川場小学校 川場村	0.634	校庭	5/22
川場村野球場 同	0.529	グラウンド	5/22
県道64号 同	0.237	道路上	
21世紀の森 沼田市	0.768	芝	5/21

6月18日（土）前回調査で高い数値を示したカ所を群馬県が再調査しメディアに公表。併せて土壌調査結果も公表される。

単位：μsv/h

測定位置：地表

測定器：サーベイメーター

測定住所	測定値	測定場所	測定日
川場小学校 川場村	0.44	校庭	6/9
川場小シト下砂場 同	0.15	校庭砂場	6/9
21世紀の森 沼田市	0.57	芝	6/9

6/16以降平日毎日9時、16時に川場村文化会館前庭（川場村谷地）で村教育委員会により調査し測定結果を県へ報告併せて公表する。

16時現在調査結果、単位：μsv/h、測定器：サーベイメーター

区分	6/16	6/17	6/20	6/21	6/22	6/23	備考
1 m	0.50	0.55	0.55	0.53	0.55		

※サーベイメーターによる簡易測定で、高めの値が出やすい。

◎水道水の分析結果等

月1回のペースで「財団法人日本分析センター」へ村より依頼し各浄水地（6カ所）の水を採取し放射能測定し公表（村広報紙等）している。

区分	3/29	5/10	6/15		
ヨウ素	検出せず	検出せず	検出せず		
セシウム	検出せず	検出せず	検出せず		

※測定器：ゲルマニウム半導体検出器

所見：原子力安全委員会により示された「飲料物摂取制限に関する指標」未満であった。

◎農産物の安全検査等

県内農産物の安全確認を行うため県農政部による農畜産物の安全検査を実施する。

採取日	採取場所	ヨウ素 131	セシウム 134	セシウム 137	検査機関
H23.4.13	川場村 原乳	0.43 規制値以下	検出せず	0.50規 制値以下	国立保健医療科学院

暫定規制値：放射性ヨウ素 300Bq/kg 放射線セシウム 200Bq/kg

採取日	産地	放射性ヨウ素	放射性セシウム	分析機関
H23.4.19	川場村 ニジマス・ヤマメ・イワナ	検出せず	検出せず	(財) 食品環境検査協会
H23.5. 2	ウド(施設栽培)	検出せず	検出せず	(財) 日本食品分析センター
H23.6.6	ウメ	検出せず	99	(財) 日本食品分析センター
7月予定				
7月4日	キャベツ(露地)			
7月11日	ブルーベリー(〃)			
7月19日	トマト(ハウス)			
7月25日	スイカ(露地)			

暫定規制値：放射性ヨウ素 2,000Bq/kg 放射線セシウム 500Bq/kg

※村独自により測定を計画したが正確な数値が求められないため県を通して専門分析機関へ依頼することとした。

報告を受けた数値は村広報紙、HPなどで公表する。

◎村としての総体的な対応

- ・村として現況の放射線量は、政府が規定している安全基準を下回っていることから村内は安全と認識している。
- ・風評被害等も懸念されることから役場庁内に6月22日付けで「川場村放射線対策協議会」を設置し今後の対策を検討する。
- ・新聞、テレビ、雑誌等のメディア報道により連日放射線被ばくの状況が報道され村民等も不安を感じていることから測定される放射線量等について正確な測定数値を公開し村民へ正確な情報を伝え正しい理解と認識をしていただくように務める。
- ・7月2日村、教育委員会主催による「放射線説明会」と「放射線講演会」を開催し正しい理解と不安解消に努める。

放射線説明者 群馬県環境保全課大気保全係長 田子 博 氏 (環境学 博士)

放射線講演者 群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部教授 渡邊 直行 氏 (医学博士)

	摘 要	測定値 A ($\mu\text{Sv/h}$)	屋外 B (h)	屋内 C (h)	1 日総量 (μSv) $A \times (B + C \times 0.4)$	日数 (日)	年間総量 (mSv)
文科省	福島県内の学校屋外活動の制限基準値を、年間20mSv以下とし、これ以上の場合、屋外活動を1日1時間程度に制限(4月19日通知)	3.8	8	16	54.72	365	19.97
群馬県	環境森林部環境保全課による放射線測定値(6月9日 11:00 川場小学校 校庭中央 測定機器 サーベイメーター)	0.44	8	16	6.34	365	2.31
文科省	福島県内の学校敷地内で受ける放射線被曝量については、「年間1mSv以下を目指す」(5月27日)[1日8時間×200日(授業日)]	1	3	5	5.00	200	1.00
川場小	仮に、現在の状況が継続した場合の川場小学校敷地内で受ける最大放射線被曝量(時間・日数は想定値*1)	0.44	3.0	5	2.20	200	0.44
※参考	事故発生前からシートが掛けられてあった砂場の放射線測定値(環境森林部環境保全課 6月9日 10:30 川場小学校 校庭砂場)	0.2	※平常時におけるサーベイメーターによる放射線量の測定値はこれに近いものと推測される。				

*参考 6月9日川場小学校測定値を文科省の避難区域等の学校等の校舎・校庭の利用判断に係る暫定的な考え方に当てはめた放射線線量試算